

和泉市長 辻ひろみちさん ビジッと6年目

再生から躍進へ

去る3月27日に閉会された平成26年和泉市議会第1回定例会において、平成26年度一般会計予算をはじめとする各議案が全て可決されました。

予算の概要としては、一般会計では618億円、対前年度比5.8%増の積極予算となっていますが、特別会計や企業会計を含めた予算総額では、市立病院の指定管理者制度移行により病院事業会計予算が減少するなど、総額1,096億3,665万1千円で対前年度比1.0%の減となっています。

平成26年度は、子育て支援事業がさらに充実され、保護者の方々の働きやすい環境づくりのため「留守家庭児童会(仲良しクラブ)」が春・夏・冬休み及び、土曜日について時間延長されます。また、待機児童解消に向けて民間保育園が新規開設されます。加えて、妊婦さんの安心安全な出産を支援するため、現行61,790円の「妊婦健康診査公費助成」を90,000円に増額されるなど、市民サービスの充実に向けた内容となっています。

また、「肺がん検診」の受診機会の拡充や「高齢者用肺炎球菌予防接種補助」の拡充など、高齢者の方々の健康づくりにも配慮されています。

その他、「小中一貫教育の推進」や元府立横山高校跡地において「(仮称)和泉市総合スポーツセンター」の整備に着手するほか、4月から市立病院の指定管理者による新たな運営開始など、教育・スポーツ・医療環境の一層の充実が図られます。

さらに平成26年度では、23年度から5年計画で取り組まれてきた「和泉再生プラン」の後継計画となる「(仮称)和泉躍進プラン」の策定に着手されます。躍進プランは、変動する時代の流れに即応するためのプランで、「和泉再生プラン」をさらに発展させ1年前倒しして27年度から実施される予定です。私たちは、持続可能な質の高い行政運営と躍進のまちづくりをめざし、一期4年間で、着実に和泉市再生へと導いた辻市長の二期目「躍進の4年間」に大きな期待を寄せています。



和泉市立病院が 新たなスタート

辻市長が一期目から精力的に取り組んでこられた「市立病院の再生」が、抜本的改革のもと、指定管理者制度を導入され、この4月から運営を医療法人徳洲会に移行し、新たなスタートを切りました。

振り返りますと、救急医療の再開はもとより、かつて泉州一といわれた市立病院を再生するため、一昨年末に指定管理者制度導入の方向付けがなされましたが、その直後は「市立病院がなくなるのか、医療の内容は大丈夫か」という不安の声もありました。

しかしながら、辻市長が先頭に立ち、市内各地で説明会を開催し、市が責任をもって医療を守ることを約束され、理解を得ながら指定管理者制度導入が進められてきました。

指定管理者制度に移行した他市の事例では、移行直後に医師や看護師が不足し、市民・患者の皆さまにご迷惑をかけることも見受けられますが、和泉市立病院では、このような事態にならないように、医療の要である医師をはじめ、病院スタッフの慰留に努められるとともに、スタッフの新規採用についても精力的・積極的に対応されてきました。その結果、必要なスタッフが確保され、医療水準を下げることなく運営が引き継がれ、より充実した医療サービスの提供への道筋をつけることができました。

徳洲会による運営によって、新しい医療機器の設置など医療環境の充実を図るほか、高度な三次救急を実施している岸和田徳洲会病院を市立病院の支援・協力病院と位置付け、市立病院をバックアップして頂けることとなっています。さらに市立病院の特色である「がん治療」の充実を図るなど、互いに両病院は補完しながら医療機能を高める方針となっています。そのために、両病院の診察券を共通化し、新たに導入した電子カルテを活用することで、スムーズで的確な連携が図られます。

なお4月からの新たな取り組みとして、自動精算機やクレジットカードによる支払い、また無料送迎バスの路線拡大もほじまり、利便性がより一層高められます。

このように、市立病院は徳洲会を指定管理者として新たなスタートを切りましたが、今後は救急医療の再開や新病院建設を早期に実現できるよう取り組まれるとのこととす。



和泉府中駅前 再開発事業

現在進行中の和泉府中駅前再開発事業は、平成12年に事業計画の認可を取得し、約12年の歳月を経て、23年3月に商業施設や駐車場、マンションからなる再開発ビル「フチュール和泉」が完成し、昨年5月に自由通路と新駅舎がオープンしました。

この自由通路は、和泉府中駅舎の橋上化と合わせて、駅の東西を結ぶ通路として整備したもので、歩行者デッキを利用して「フチュール和泉」や「ロードインいずみ」へアクセスすることができ、歩車分離により、駅周辺の安全性とともに回遊性を高めています。

また平成24年度から進められてきた和泉府中駅前広場の整備も本年3月31日に供用開始されました。この駅前広場では、ゆとりある空間を活用し、路線バス乗降場4ヶ所、コミュニティバス乗降場、タクシー乗降場が配置され、公共交通機関の乗り継ぎが大変便利になりました。併せて路線バス乗降場前エスカレーター下に、南海バスの定期券売り場も設置されました。

現在、新駅舎からロードインいずみまでの歩行者デッキ工事が行われておりますが、工事途中でも安全が確保でき次第第通行可能で、5月中旬頃完成する見込みです。なお、ロードインいずみ前エレベーター設置工事の完成予定は8月末となっております。

JR和泉府中旧駅舎跡地の駅前広場整備工事は、歩行者デッキ完成後の7月中旬頃から着手され12月末に完成予定で、ロードインいずみ前の歩車道整備工事は、8月に着手し平成27年3月に完成予定となっております。

和泉市の都心にふさわしいまちづくりが、さらに推進することを期待しています。



総合スポーツ施設の整備に着手

元大阪府立横山高校(和泉市下宮町)の跡地に「(仮称)和泉市総合スポーツセンター」が整備されることとなりました。

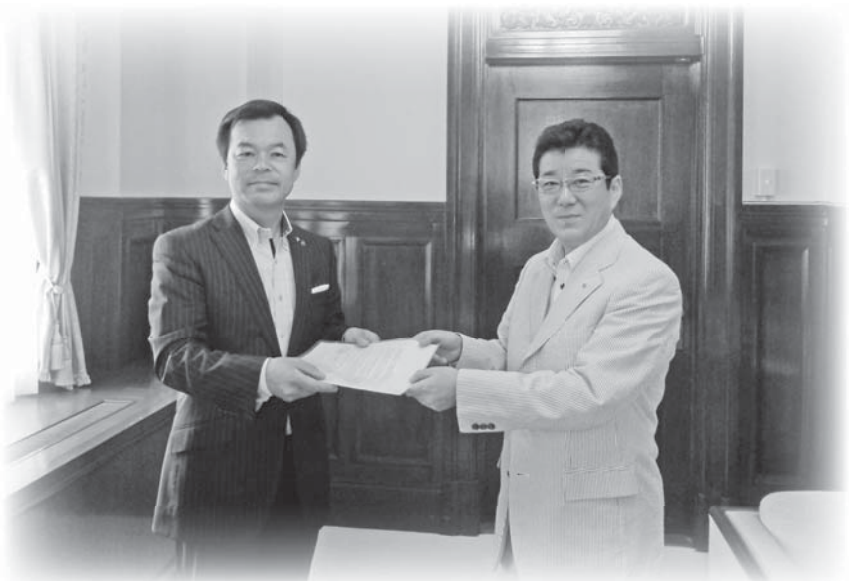
同敷地は、平成24年6月に大阪府から和泉市が土地交換契約により取得したもので、南部地域の活性化に繋がる土地利用が検討されてきました。

一方、「和泉市スポーツ推進基本計画」の策定にあたり実施した市民アンケートの結果では、民間では提供することが難しい「サッカー場」や「身近に手軽な運動ができる公園」のほか、「テニスコート」などの整備を望む声が多くあり、同計画策定委員会からは、横山高校跡地を「スポーツ振興発展のための用地」として活用するよう「元大阪府立横山高等学校跡地の活用に関する意見書」が辻市長に届けられました。

今回の総合スポーツ施設の計画では、新市立病院の建設予定地となった現在の市民球場(和気町)の移転を最優先事項として盛り込み、①野球場(両翼90m、中堅110m、夜間照明設備、観客席を完備)②多目的グラウンド(115m×78m、人工芝、サッカーの公式試合に対応し、夜間照明設備完備)③テニスコート(4面、砂入り人工芝、夜間照明設備完備)の3つの施設を配置し、「誰もが気軽にスポーツを楽しめる元気と笑顔があふれるスポーツの拠点」として、平成28年4月の供用開始をめざしています。

2020年東京五輪開催で市民のスポーツに対する関心が高まっています。自然豊かな「横山」の地に誕生するこの施設が、さらなる市民スポーツの振興、発展とともに、南部地域の活性化に繋がるものと大きな期待を寄せています。

泉北高速鉄道の 運賃値下げ実現へ



一昨年6月、辻市長が松井知事に「要望書」を手渡し、それから2年。ここに来てようやく泉北高速鉄道の運賃値下げに見通しがつきました。

この間、紆余曲折はあったものの去る2月21日の府議会にて知事が、泉北高速鉄道の株式売却先を南海電気鉄道(株)にする方針を示しました。

昨年12月には、和泉市議会からも要望決議が府知事、府議会に届けられました。

株式会社売却の公募に対して提案した3社のうち、運賃の値下げ幅で勝っていた同社が選ばれたことは、和泉市や堺市の泉北高速鉄道沿線住民の声が届いた結果ではないでしょうか。

泉北高速鉄道の運賃は、中百舌鳥駅での南海電鉄への乗り継ぎによる初乗り運賃の要因で他の路線と比較して割高で、南海電鉄が提案した「80円の乗り継ぎ運賃値下げ」や通学定期券の「学割拡大」は、長年にわたって沿線住民が願っていたものでした。新年度が始まり、子どもさんの定期券を購入されたご家庭も多いのではないかと思います。南海電鉄への株式売却には改めて府議会での承認が必要ですが、できるだけ早く、市民が、その効果を実感できるよう今後の取り組みに期待しています。